

令和4年度第2回 岡山県文化振興審議会

日時：令和4年8月24日（水）

14時～15時30分

場所：ルネスホール ワークルーム

1 開 会

2 議 事

- ・ おかやま文化振興ビジョンの中間見直しについて

3 閉 会

《第3回審議会の予定》

日時：令和5年2月

場所：ルネスホール ワークルーム

岡山県文化振興審議会委員

任期：2022. 2. 1～2024. 1. 31

氏名	役職名	
臼井 洋輔	備前市立備前焼ミュージアム館長	
大原 謙一郎	公益財団法人大原美術館名誉館長	
加納 容子	勝山文化往来館ひしお副館長	
神崎 宣武	民俗学者	欠席
柴田 奈美	岡山県立大学デザイン学部教授	
高原 洋一	岡山県美術家協会副会長	
竹内 京子	くらしき作陽大学教授音楽学部長	
二階堂 裕子	ノートルダム清心女子大学文学部教授	
松田 正己	山陽新聞社代表取締役社長	

敬称略 50音順

岡山県文化振興審議会規則

平成十八年三月二十四日
岡山県規則第五十一号

(趣旨)

第一条 この規則は、岡山県附属機関条例(昭和二十七年岡山県条例第九十二号)第四条の規定により、岡山県文化振興審議会(以下「審議会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第二条 審議会は、次の事項を所掌する。

- 一 岡山県文化振興基本条例(平成十八年岡山県条例第十五号。以下「文化振興基本条例」という。)第八条の規定により知事から諮問された事項に関する調査審議及び意見の具申
- 二 その他文化振興基本条例の施行に関する意見の具申

(組織)

第三条 審議会は、委員二十名以内で組織する。

- 2 委員は、学識経験を有する者のうちから知事が任命する。

(委員の任期)

第四条 委員の任期は、二年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員は、任期満了後であっても、新たに委員が任命されるまでは、その職務を行うものとする。
- 3 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第五条 審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によってこれを定める。

- 2 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第六条 審議会の会議は、会長が必要に応じて招集し、会長が議長となる。

- 2 審議会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 審議会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(専門部会)

第七条 審議会は、その所掌事項の一部を分掌させるため、専門部会を置くことができる。

(委員以外の者の意見の陳述)

第八条 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に審議会の会議に出席して意見を述べさせ、又は説明させることができる。

(庶務)

第九条 審議会の庶務は、環境文化部文化振興課において処理する。

(その他)

第十条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

附 則

この規則は、平成十八年四月一日から施行する。

附 則(平成二二年規則第二七号)抄

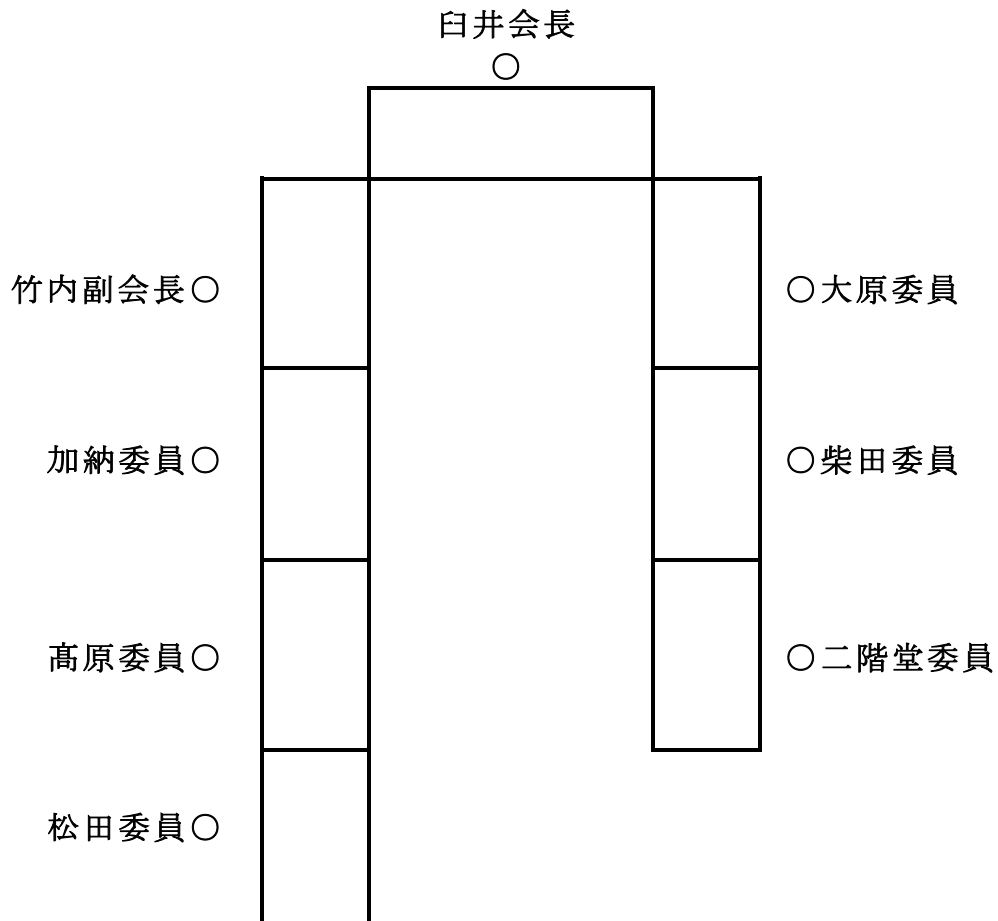
(施行期日)

- 1 この規則は、平成二十二年四月一日から施行する。

令和4年度第2回 岡山県文化振興審議会 配席図

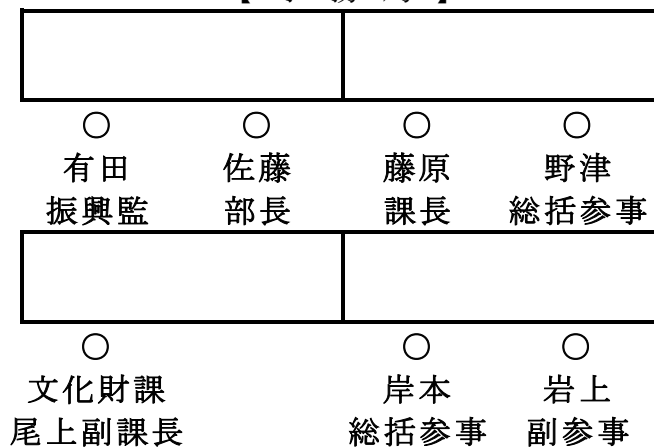
日時：令和4年8月24日（水）14:00～15:30

場所：ルネスホール ワークルーム



報道席

【事務局】



傍聴席

傍聴席

令和4年度第2回 岡山県文化振興審議会

配 付 資 料

日時 令和4(2022)年8月24日(水)

14時～15時30分

場所 ルネスホール ワークルーム

○おかやま文化振興ビジョンの中間見直しについて

1	令和4年度第1回文化振興審議会での委員発言の主なもの・・・・・・・・	1
2	おかやま文化振興ビジョン(2018-2027)体系図(中間見直し素案)・・・	5
3	おかやま文化振興ビジョン(2018-2027)の中間見直し(素案)・・・・・・・・	6
4	おかやま文化振興ビジョン(2018-2027)に係る成果指標の見直し(素案)	26
5	ビジョン中間見直しのスケジュール(案)・・・・・・・・・・・・・・・・	30

令和4年度第1回文化振興審議会での委員発言の主なもの

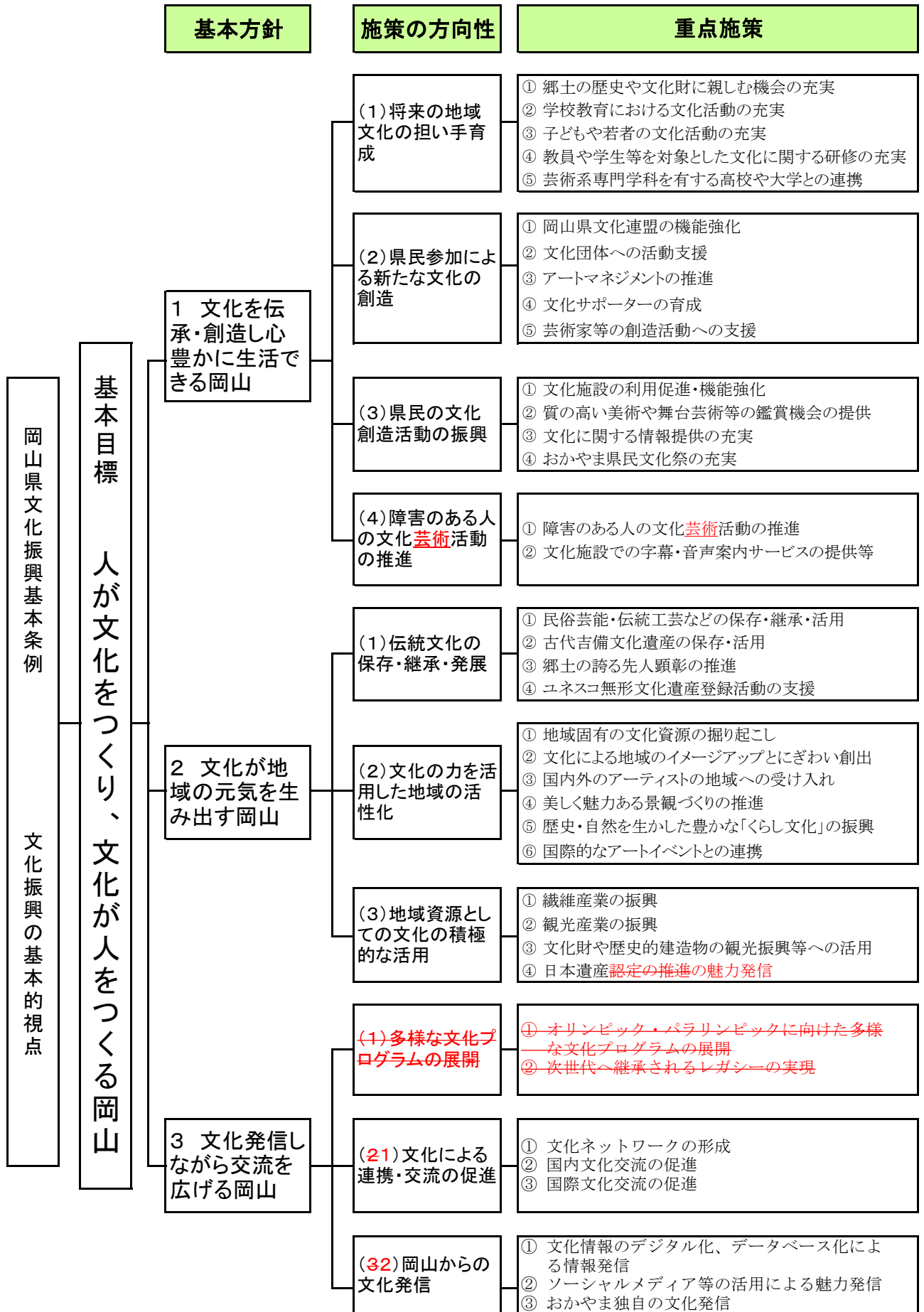
番号	施策の方向性	重点施策	委員発言	
	基本方針1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山			
1	(1) 将来の地域文化の担い手育成	②学校教育における文化活動の充実	1年に2回くらいは、小学1年生から6年生までの子どもたちに、映画を見せるチャンスを作ってはどうか。	
2		③子どもや若者の文化活動の充実	子どもみらい塾の講師派遣を受けた学校や優れた芸術を鑑賞した学校について、同じ学校がトライしている傾向があるなら、教育委員会との連携により、今までトライしたことのない学校を対象とする方法はないのか。	
3		④教員や学生等を対象とした文化に関する研修の充実		先生方の意識の改革という意味でも研修はとても大事だ。熱心な学校がある一方で、全く無関心な学校もあるので、学校差をなくしていただきたい。
4				教員の資質を高めるための塾を運営しているが、教員が大変忙しく出てこれられない。教員は試験や部活などで忙しいが、教員に対する働きかけを強めるのは基本的に大事なことだ。
5				<p>現行ビジョンの「教員や学生等を対象とした文化に関する研修の充実」は、非常に大事なことだ。地域社会を、その小学校の先生方がしっかり捉えることが重要だ。</p> <p>地域社会の資産の状況や重要性を把握し、どれだけのものを残すかということを考え、提案して呼びかけるリーダーを作らなければ、日本のムラは壊滅状態になる。</p> <p>研修の中に地域社会を加え、研修でのこうしたテーマの充実を実現してほしいと思うのがいかがか。</p>
6				<p>外国人の英語の先生を招くのと同じように、1年か2年、地域社会、地域文化だけに取り組む先生が1人居ても良いと思う。市町村にはできないので、県でぜひ、そういう先生を探したり育てたりお願いするような機会を作してほしい。</p> <p>全国共通の問題であり、岡山県が範を示すことが大事だ。</p>

番号	施策の方向性	重点施策	委員発言
7	(2) 県民参加による新たな文化の創造	②文化団体への活動支援	支援対象となる文化団体について、見直しの必要はないのか。毎年同じような団体が支援を受けていると思うが、例えば、金額を少なくし対象者を増やす、というチャレンジをしてみようか。
8			助成金の手続きは面倒で、民間だけで取ることは難しいので、文化振興課や文化連盟がうまく手分けをして、たくさん助成金を取ってくださることができるようにアシストしてほしい。
9	(3) 県民の文化創造活動の振興	②質の高い美術や舞台芸術等の鑑賞機会の提供	指標「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」は削除すべきではない。 目標設定や評価基準の設定は基本的に重要なので、可能であれば、指標の改訂のために有識者3人か5人程度で徹底的に議論するような小委員会を作っていただきたい。
10		③文化に関する情報提供の充実	各施設で行われる催し以外の催しについて、文化施設同士が相互に積極的に広報し合ってはどうか。
11	(4) 障害のある人の文化活動の推進	①障害のある人の文化活動の推進	下石井公園内に、きらぼしアートセンターができたが、障害者だけでなく健常者も展示会を開けるような交流の場として機能すると良いと思う。
基本方針2 文化が地域の元気を生み出す岡山			
12	(1) 伝統文化の保存・継承・発展	①民俗芸能・伝統工芸などの保存・継承・活用	伝統文化には農業が非常に深くかかわっている。「農業」を新たな視点としてはどうか。
13			「地域資源としての文化の積極的な活用」に係る指標として、「観光客の数」は指標としてふさわしいのか。もう少し実効性のある指標はないのか。

番号	施策の方向性	重点施策	委員発言
14	(1) 伝統文化の保存・継承・発展	①民俗芸能・伝統工芸などの保存・継承・活用	<p>文化を観光資源として利用することは結構であり、文化を活用するような指標はたくさんあるが、文化を育てる、クリエイトする方向の指標が少し乏しい。</p> <p>例えば、農業は文化のゆりかごであり、その中から文化がいろいろ出てくる。文化をクリエイトする仕組みを壊さないというような指標も作ってはどうか。</p>
15	(1) 伝統文化の保存・継承・発展	④ユネスコ無形文化遺産登録活動の支援	<p>ユネスコの無形文化遺産の登録に向けた支援をお願いしたい。書道や茶道など、複数の項目を挙げたほうが良い。</p> <p>現実的に実現しそうなのが神楽だが、ユネスコでは、個別に地域のものを出しても審議はできないので、日本の神楽でまとめなければいけない。備中神楽などで、そういう動きはすでに出ている。備中全体で神楽を無形文化遺産へ、ということをも県でも考え、指定に向けて大枠で後援してほしい。</p>
基本方針3 文化発信しながら交流を広げる岡山			
16	(2) 文化による連携・交流の促進	②国内文化交流の促進	<p>かつて、岡山県総合文化センター（現：天神山文化プラザ）では、汎瀬戸内現代美術展という中四国の素晴らしい作家に光を当てた展覧会を開催していたが、中四国のあちこちに美術館ができたことで交流がなくなった。もっと大きな枠での文化活動があっても良いと思う。</p>
17	(2) 文化による連携・交流の促進	③国際文化交流の促進	<p>現行ビジョンに県内在住の外国人についての記述があるが、指標への反映が不十分であり、県内在住の外国人との連携、交流があまり念頭に置かれていないのではないかと。</p> <p>様々な文化、価値観を持っている人がつながってこそ、新しい価値、文化が生まれ、内発的発展の基礎になると思う。</p>

番号	施策の方向性	重点施策	委員発言
総論			
18			<p>コロナ禍に入って2年半経ち、まさに、パラダイムシフトといえる大きな価値観の転換があったので、小手先の見直しでは県民の心に響かないと思う。新しいビジョンを作るぐらいの気構えが必要だ。SDGsについても、17番目の目標は文化に関するものだと思うが、考慮が必要ではないか。</p>
19			<p>文化とは何か、というところから文化を構築しなおし、文化ビジョンについても、今回は無理かもしれないが、「次は本当に抜本的にすごいのを作ろうよ」という思いが大事ではないか。これからも常に見直しを進めてほしい。</p>
20			<p>成果指標については議論が必要だ。そもそも文化活動を指標で評価していいのか、と疑問に思っている。</p> <p>文化を数値指標で評価してよいのか、ということ自体を問いかけてほしいが、結局は数値指標で評価することになると思うので、指標の中身をどうするか、ということはかなり考えなければならない。</p>
21			<p>今回の中間見直しで全てを変えることは物理的にも大変難しいことは理解しているので、骨格は維持し、新しい社会に向けて、目標や成果指標は変えていただきたい。</p>

おかやま文化振興ビジョン(2018-2027)体系図(中間見直し素案)



おokayama文化振興ビジョン(2018~2027)の中間見直し(素案)

I	ビジョン 策定改訂 にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・	8
1	これまでの経緯と 策定改訂 の趣旨	
2	位置づけ	
3	対象範囲	
4	期間	
II	文化振興の基本的視点・・・・・・・・・・・・・・・・	10
1	文化振興の基本的視点	
(1)	自由な発想と主体的な文化活動の尊重	
(2)	文化を創造し、享受することができる環境の整備	
(3)	芸術家等の育成	
(4)	県民の協働による文化の振興	
(5)	将来の世代への文化の継承	
2	県の役割	
(1)	県民が文化に親しむ環境づくり・文化が育まれる風土づくり	
(2)	東京オリンピック・パラリンピック開催を契機とした 県民文化の継承・発展	
(3)	未来を創り、拓いていく担い手育成	
(4)	「文化の力」の充実と活用	
(5)	文化ネットワークの形成	
III	基本目標・・・・・・・・・・・・・・・・	13
	「人が文化をつくり、文化が人をつくる岡山」	
IV	基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・	14
1	文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山	
2	文化が地域の元気を生み出す岡山	
3	文化発信しながら交流を広げる岡山	
V	具体的施策・・・・・・・・・・・・・・・・	15
1	文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山・・・・・・・・	16
(1)	将来の地域文化の担い手育成	
(2)	県民参加による新たな文化の創造	
(3)	県民の文化創造活動の振興	
(4)	障害のある人の文化 芸術 活動の推進	

2	文化が地域の元気を生み出す岡山	19
	(1) 伝統文化の保存・継承・発展	
	(2) 文化の力を活用した地域の活性化	
	(3) 地域資源としての文化の積極的な活用	
3	文化発信しながら交流を広げる岡山	23
	(1) 多様な文化プログラムの展開	
	(2 1) 文化による連携・交流の促進	
	(3 2) 岡山からの文化発信	
VI	文化振興のための体制づくり	25
1	文化行政推進体制の充実	
2	政策形成への民意の反映等	

I ビジョン策定改訂にあたって

1 これまでの経緯と策定改訂の趣旨

岡山県では、平成12（2000）年3月に21世紀を展望した「岡山県文化振興ビジョン」を策定し、平成18（2006）年3月には、県民の主体的な文化活動を尊重し、多様な主体との協働により、心豊かに生きることができる地域社会の実現を目指した「岡山県文化振興基本条例」を制定しました。そして、この条例制定を契機として、「おかやま文化振興ビジョン」を平成20（2008）年2月に新たに策定し、各種施策に取り組んできました。

また、県では、平成16（2004）年の「県立図書館」、平成17（2005）年の「天神山文化プラザ」、「ルネスホール」などの開館や「岡山県文化連盟」の創設などハード・ソフトの両面から施策を実施し、着実に成果を上げてきました。

さらに、平成22（2010）年秋に開催した「第25回国民文化祭・おかやま2010」（愛称：「あっ晴れ！おかやま国文祭」）では、これまで蓄積された岡山の文化を生かし、新しい文化の創造や発展に取り組むとともに、全国へ向けて岡山の文化を発信する大きな機会となりました。

一方、本県において、令和2年3月に新型コロナウイルスの感染者が確認されて以降、感染症が急激に拡大し、その後の緊急事態宣言の発令等を受け、文化芸術団体や文化施設は公演等のイベントの中止、延期、規模縮小を余儀なくされるとともに、地域では祭礼や民俗芸能等の伝統行事なども大きな影響を受けました。しかし、コロナ禍という未曾有の困難と不安を経験する中においても、文化芸術は、県民に感動や生きる喜びを与え続けました。

~~平成29~~令和3（~~2017~~21）年度からの4年間の県政推進の羅針盤である「新第3次 晴れの国おかやま生き生きプラン」では、~~生活の質を重視し、心の豊かさを求める県民ニーズの高まりを受けて、重点戦略として「安心で豊かさが実感できる地域の創造」を掲げ、その中で、この度のコロナ禍が文化の価値を見つめ直す機会になったことも踏まえ、~~文化の振興を通じて、豊かで潤いのある暮らしや活力のある地域の創造を目指すとともに、~~東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京オリンピック・パラリンピック」で表記する。）に向け、県下で文化プログラムを積極的に展開していくこととしています。~~

今回、こうした社会経済情勢等の変化等を受け、あらためて浮かび上がった課題等も踏まえながら、東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、本県文化の一層の振興を図る施策を効果的に展開し、東京オリンピック・パラリンピック後の文化のレガシーとして岡山の文化を揺るぎないものとして次世代へ継承し、発展させていくためにこのビジョンを策定改訂するものです。

2 位置づけ

このビジョンは、岡山県文化振興基本条例第7条に定める「文化の振興に関する基本的な計画」としての役割を担うもので、長期的視点に立った今後の本県文化行政の施策の方向性を示すものです。

3 対象範囲

「文化」は様々に捉えられていますが、本ビジョンでは、岡山県文化振興基本条例に基づき、概ね次に掲げる芸術、生活文化、伝統文化などの各分野を対象としています。

さらに、文化の持つ力を活用した地域づくり・国際交流・産業振興・福祉・景観などの分野における取組も含めて検討しています。

(対象とする分野)

- ◇芸術（文学・音楽・美術・書道・写真・演劇・舞踊・工芸・デザインなど）、メディア芸術（映画・漫画・アニメーション・コンピュータなどを利用した芸術など）
- ◇生活文化（茶道・華道・囲碁・将棋・民芸・郷土料理・ファッションなど）、文字・活字文化
- ◇伝統文化（地域の歴史と風土の中で育まれてきた文化財・工芸・民俗芸能・祭り・行事・方言など）

4 期間

平成30（2018）年度から~~平成30~~令和9（2027）年度までの10年間とします。

なお、~~5年程度で~~令和4年度に中間見直しを行うこととし、内容を改訂しています。

Ⅱ 文化振興の基本的視点

1 文化振興の基本的視点

このビジョンは、岡山県文化振興基本条例第3条に掲げた5つの基本理念を基本的な視点として策定します。

(1) 自由な発想と主体的な文化活動の尊重

文化の創造は、芸術家のみならず、すべての人の創造活動により実現するものです。こうした人間の自由な精神に基づいた多様な創造活動は、個人の生活の質を高め、その個性や創造性を引き出す原動力になります。

こうしたことから、県民一人ひとりの自由な発想と主体的な文化活動が尊重され、すべての人が自由な発想を持って活動することにより、文化が活性化され、より豊かで特色ある創造的な地域文化が生まれるという視点を幅広く共有することが重要です。

(2) 文化を創造し、享受することができる環境の整備

文化を創造し、享受することは、人々の生まれながらの権利です。県内どこに住んでいようと、誰もが等しく文化を創造し、享受することができる環境を整えていかななくてはなりません。

これまで、県内各地で公立文化施設等の整備が進められ、施設面では充実してきましたが、文化を享受する機会についてはまだ地域的に大きな開きがあります。

こうしたことから、文化に関する情報提供や各地域における文化を育む環境の整備を通じて、広く県民が様々な形の文化に触れ、文化の創造活動に参加できるとともに、創造性や個性を発揮しやすい環境をつくることが重要です。

(3) 芸術家等の育成

多様で優れた文化を創造し、継承し、発展させていくためには、文化に関する創造活動に携わる芸術家をはじめ、文化施設や文化団体で企画・研究等を行う学芸員やアートマネジメント^{※1}担当者、文化財等の保存技術保持者や研究者、伝統芸能の伝承者などの活動と相互の連携が欠かせません。

こうしたことから、これらの人々が活動成果を発表する機会の確保に加えて、文化に関する幅広い人材の育成・活用や資質向上のための研修等の充実を図ることが重要です。

※1 アートマネジメント：文化施設の運営や文化団体の活動、あるいは、文化関係の催しに対し効果的で大きな成果をあげるための活動の総称。具体的には、企画制作、管理関係業務、広報活動、持続的に活動するための組織経営などが含まれます。

(4) 県民の協働による文化の振興

文化は、地域の魅力を創造し、豊かな地域づくりの礎になるとともに、人々に精神的な豊かさや感動を与え、生きる力と喜びをもたらすなど、様々な面で私たちの生活を支えているものです。

文化の持つこのような力を人づくりや地域づくり、さらには地域産業の活性化に生かしていくことが必要です。

また、文化活動を行うNPO等の増加、大学と地域の連携、文化活動を支援する企業のメセナ活動など、行政以外の分野でも様々な取組が広がりつつあります。

こうしたことから、県民・文化団体・NPO・企業・大学など、様々な主体と行政が、目標を共有しながら、その目標に向かって、ともに力を合わせて活動する文化の振興を進めていくことが重要です。

(5) 将来の世代への文化の継承

地域の歴史と風土の中で育まれてきた文化財・工芸・民俗芸能・祭り・行事・方言などの伝統文化は、人々の暮らしや生き方を支える基盤であるとともに、全国・世界に誇りうる貴重な財産です。また、これらの伝統文化は県民の誇りと心のよりどころであり、県民の活力を高め、新しい価値を創造する源であるとともに、将来の地域発展の基礎となるものです。

こうしたことから、県内各地の個性ある伝統文化や埋もれた文化資源を掘り起こし、県民共有の財産として尊重し、将来の世代に伝えていくことが重要です。

2 県の役割

県の役割は、地域における文化振興の総合的なコーディネーターとして、芸術家等の育成支援や、県民や民間団体等の主体的な文化活動が活発に行われるような環境づくりを図るとともに、文化が育まれる風土づくりを醸成し、文化活動の成果がよりよい地域づくりに生かされるよう努めていくことです。

このため、岡山県文化連盟(公益社団法人岡山県文化連盟、以下同じ。)に設置した「おかやま文化芸術アソシエイツ」^{※2}の機能も活用しながら、次の役割に重点を置き、施策を推進していきます。

※2 おかやま文化芸術アソシエイツ:岡山県と岡山県文化連盟が、文化連盟内へ設置している組織であり、県内の文化団体等の活動支援やコーディネート、~~東京オリンピック・パラリンピックにおける文化プログラムの認証・参画促進、文化事業に関わるあらゆる相談窓口業務等を行うことを目的としている。~~

(1) 県民が文化に親しむ環境づくり・文化が育まれる風土づくり

多くの県民が子どもの頃から様々な文化に親しみながら、文化活動に参加できる環境づくりや、県民が文化に興味を持ち、文化を尊重する風土づくりに努めます。

(2) ~~東京オリンピック・パラリンピック開催を契機とした~~県民文化の継承・発展

~~東京オリンピック・パラリンピックに向け、これまで蓄積されてきた岡山~~の伝統的文化を取り入れながら、世代や分野を超えた新しい文化が創造され発展するよう文化プログラムを展開する~~取り組んでいく~~とともに、~~そのレガシーを東京オリンピック・パラリンピック後の充実した文化活動へと継承・発展させていく仕組みづくりに~~この度のコロナ禍に象徴されるように、社会経済情勢等の変化により、文化芸術を取り巻く環境がどのような影響を受けても、岡山の文化を揺るぎないものとして次世代へ継承し、発展させていくよう努めます。

(3) 未来を創り、拓いていく担い手育成

将来の岡山の文化を担う子どもや若者らが、様々な文化を体験できる機会を充実するとともに、若手芸術家の育成など、未来を創り、拓いていく担い手の育成に努めます。また、文化芸術に親しみ理解を深める取組を通じ、文化芸術を積極的に楽しむ層の拡大に努めます。

(4) 「文化の力」の充実と活用

文化の持つ「人々を感動させ魅了する力」、「地域の魅力や価値を高める力」等に着目し、その力を高めて地域づくり・産業振興・福祉などに生かし、地域の活性化に努めます。

(5) 文化ネットワークの形成

文化の持つ力を高め、文化活動を活発化させるため、人・もの・地域・情報を結びつける仕組みづくりに努めます。

Ⅲ 基本目標

「人が文化をつくり、文化が人をつくる岡山」

岡山県は、豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、古代吉備からの長い歴史を通じて、人・もの・情報が活発に行き交う水陸の交通の要衝として栄えてきました。

そうした中で、先人が育み守り伝えてきた独自の文化と、時代ごとに新たに創造された文化とが交流し、融合する中で、岡山の文化を形成してきました。

今また、県民の自主的な文化活動や幅広い交流を図ることで、新しい文化が生み出されようとしています。

~~東京オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典のみならず、文化の祭典でもあることから、大会の開催に向け、引き続き、県民が郷土の歴史や伝統文化に親しむとともに、多様な創造活動に自ら参加し、豊かで潤いのある暮らしや活力のある地域の創造を目指していくことが大切です。~~

~~そして、東京オリンピック・パラリンピック開催後も、岡山の文化の再認識と継承・発展、次世代育成と新たな文化の創造、岡山の文化の情報発信と様々な交流といった岡山ならではの文化のレガシーを生み出していくことが必要です。~~

県民一人ひとりが岡山の文化に愛着心と誇りを持ち、県民の協働によって岡山の文化を継承・創造・発信しながら発展させていきます。そして、その豊かで特色ある岡山の文化が人々の心の豊かさや活力を一層向上させます。このような好循環が県民の自由な発想と活発な文化活動によって生み出され、岡山の文化の質がさらに高まっていくことを目指します。

IV 基本方針

1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

県民一人ひとりが文化を創造し、楽しみ、感動する機会を平等に得られることが大切です。そのためには、あらゆる県民が居住地域に関わらず、創作活動に参加したり、鑑賞体験できる機会を充実させることが必要です。

また、若手芸術家への支援や文化サポーター^{※3}の育成など、文化を創造し、支える人材の育成を図る必要があります。

このため、多くの県民が子どもの頃から様々な文化に親しみながら、各地域で文化の伝承・創造活動に参加できる環境づくりや、文化に興味を持ち、文化を尊重する風土づくりに努めます。

2 文化が地域の元気を生み出す岡山

文化の持つ力は、県民の自信と活力を高め、新しい価値を創造する源であり、豊かな地域づくりに欠かすことができません。

また、地域固有の歴史と風土の中で育まれてきた伝統文化や、歴史的なまちなみ、集落や都市の景観、自然環境等は、県民の誇りと心のよりどころであり県民共有の財産です。

文化の持つ力でこれらの地域の魅力や価値をさらに掘り起こし、地域の特色や魅力を生かした取組を展開することで、観光や地域産業の活性化など、豊かな地域づくりにも文化の力を生かしていきます。

3 文化発信しながら交流を広げる岡山

古くから交通の結節点となって栄えてきた岡山の歴史が語るように、人・もの・情報が活発に行き交う時代と地域にあってこそ多様な文化が融合し、向上し、新しい文化が育まれます。

また、地域固有の文化は、人々の心を結びつけ、相互理解と連携を深める上で重要な役割を果たすとともに、郷土への愛着心を育みます。

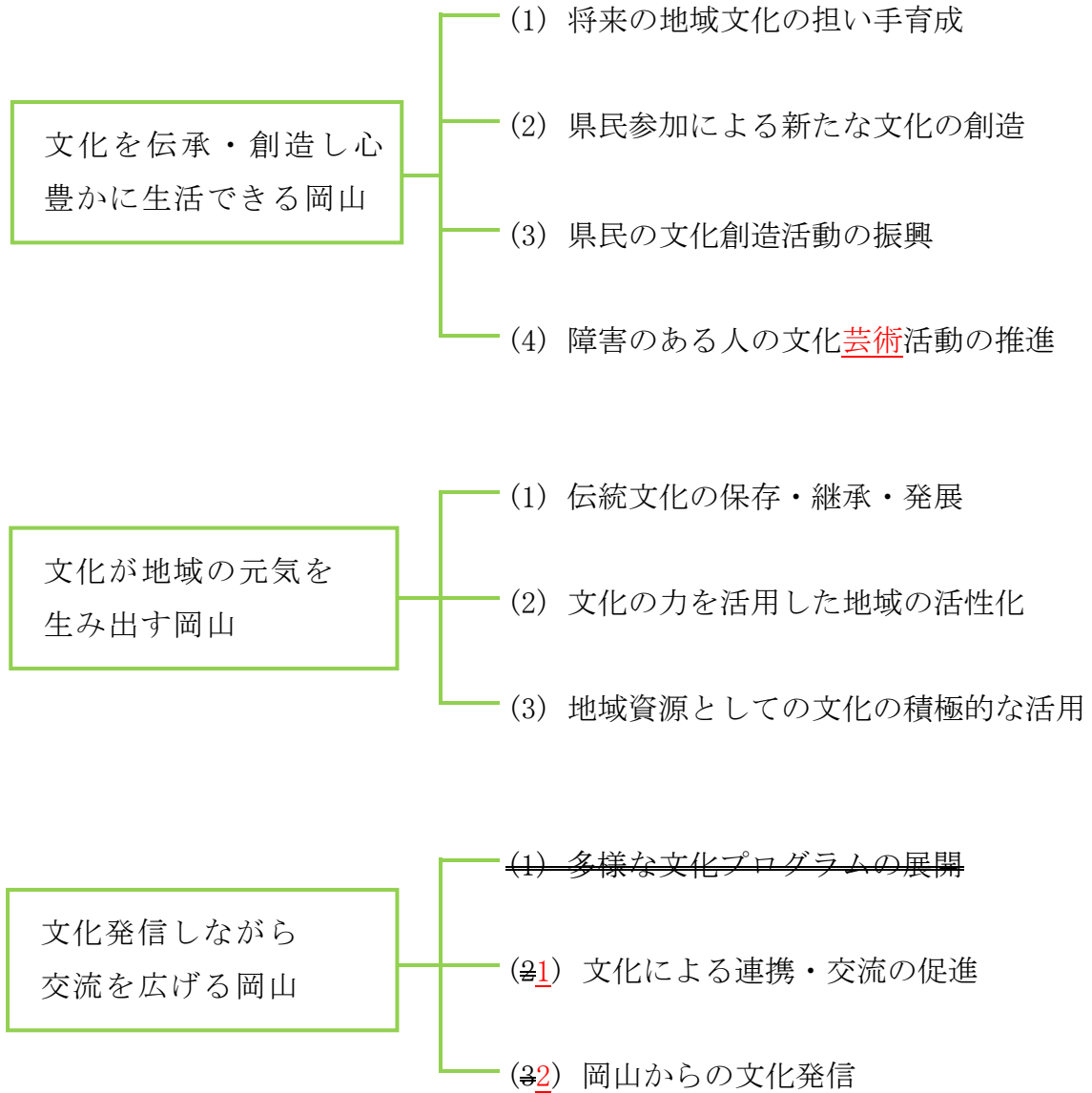
このようなことから、それぞれの分野で活動する文化団体等がお互いに幅広い交流を行い、連携を深められるよう努めるとともに、岡山の魅力を伝える文化の積極的な発信と多様な文化の受信に取り組みます。

~~また、東京オリンピック・パラリンピックに向け、文化を通じた機運醸成を図るため、岡山の魅力あふれる文化を世界の人々に発信するとともに、創出した次世代に誇れる文化のレガシーを継承・発展させるよう努めていきます。~~

※3 文化サポーター：文化活動に主体的に参画する人や、文化イベントの支援を行うボランティアなど、文化活動に関与する県民を広く総称するものです。文化サポーターを育成・支援し、相互のネットワークを構築する組織として、岡山県文化連盟内に「おかやま文化芸術アソシエイツ」が設置されています。

V 具体的施策

(施策体系)



1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

(1) 将来の地域文化の担い手育成

学校や地域において、子どもや若者が本物の文化に触れ、豊かな感性や創造性を育む機会を充実することにより、次世代の文化の担い手となる、心豊かな子どもや若者の育成を図ります。

(重点施策)

○郷土の歴史や文化財に親しむ機会の充実

岡山ゆかりの人物をわかりやすく紹介するガイドブックや文化財めぐりに便利なマップ等の作成、文化財や文化財に関する情報の整理・充実、インターネット等を活用した発信など、子どもや若者が、郷土の歴史や有形・無形の文化財に親しむ機会の充実を図ります。

○学校教育における文化活動の充実

「総合的な学習の時間」など様々な学習機会を活用して、芸術や伝統文化等に親しむ教育の充実や、児童生徒が発表する機会や優れた文化を鑑賞する機会の充実を図ります。

また、学校の各教科等の授業や文化部活動の活性化を図るため、音楽や美術等の指導を行う教員の資質向上を図るとともに、優れた地域の芸術家や文化活動の指導者などと教員が協力して、様々なプログラムを作成し指導ができる取組を促進し、学校における芸術教育や文化活動の充実を図ります。

なお、段階的な部活動の地域移行に伴い、児童生徒が将来にわたっても文化芸術に継続して親しむ機会を確保できるよう、地域の文化芸術団体等と連携・協力した地域における文化芸術に親しむ環境充実に取り組みます。

○子どもや若者の文化活動の充実

子どもや若者を対象とした文化公演等への支援を行うとともに、民間団体等との連携などにより文化活動の場や機会の充実を図ります。また、~~学校等と連携し、県立美術館や県立博物館などの文化施設による~~文化・芸術の優れた指導者を講師とする学校出前講座の実施や、美術館、博物館などの文化施設や文化団体等によるアウトリーチ活動^{※4}の充実を図るなど、未来を担う子どもたちの文化に対する感性を育む取組を促進します。

※4 アウトリーチ活動：アウトリーチの本来の意味は、手を伸ばすこと。日頃、文化に触れる機会が少ない人々へ文化施設などが館外で行う普及活動をいいます。

○教員や学生等を対象とした文化に関する研修の充実

子どもたちに文化に関する指導を行う教員の資質の向上を図るため、県立博物館、県立美術館、古代吉備文化財センターなどの県立文化施設を活用した研修の充実を図ります。また、次代を担う学生等が多様な文化に触れる機会を増やし、心豊かで地域に誇りと愛着心を持つことにつながるような研修機会の充実を図ります。

○芸術系専門学科を有する高校や大学との連携

県立文化施設と県内の芸術系専門学科を有する高校や大学が、部活動、職場実習、出前講座などによる連携を通じ、新たな文化活動の創出、ネットワークの構築を図ります。

(2) 県民参加による新たな文化の創造

県民による文化活動の充実を図るため、文化活動を担う人材及び団体等の育成及び活用に努めます。また、次世代を担う新進芸術家が活動成果を発表する機会の充実に努めます。

(重点施策)

○岡山県文化連盟の機能強化

岡山県文化連盟内に設置している「おかやま文化芸術アソシエイツ」は、この度のコロナ禍において、県内の文化団体等に対して活動を継続するための相談・支援等の取組に大きな役割を果たしたところであり、引き続き、文化団体やアーティストなどの創造活動への支援やコーディネート、また、文化団体相互の連携を促進する中間支援組織「~~おかやま文化芸術アソシエイツ~~総合窓口としての機能の充実、強化を図ります。

○文化団体への活動支援

岡山県文化連盟、岡山県郷土文化財団(公益財団法人岡山県郷土文化財団、以下同じ。)等と連携して、県内の文化団体が自らのレベルアップを図るためのノウハウや、国や民間団体の各種助成制度についての情報提供等に努めます。

○アートマネジメントの推進

文化施設・文化団体の担当者、舞台技術者、学芸員などを対象に、企画制作、広報等資質向上のための研修や交流機会の充実を図ります。

また、地域における文化活動を支えていけるよう、企画、制作、演出などができる人材を育成するとともに、その人材を民間団体、NPO等が有効に活用できるような仕組みを構築します。

○文化サポーターの育成

県内各地で展開される、分野や世代を超えた活発な文化活動を様々な形でサポートする人材を育成、活用し、今後の充実した文化活動へと結びつけます。

○芸術家等の創造活動への支援

地元の芸術家等による創造活動を支援するため、市町村や地域住民と協力しながら、おかやま県民文化祭をはじめとした活動の場の充実に努めます。

また、次の世代を担う若手芸術家を育成するため、新進美術家を対象とした岡山県新進美術家育成「I氏賞」を活用するなど本県ゆかりの若手芸術家の発表の場を提供するよう努めます。

(3) 県民の文化創造活動の振興

広く県民が、身近なところで文化についての理解及び関心を高め、質の高い文化を鑑賞するとともに、文化の創造活動に参加できるような環境の整備を進め、優れた地域文化の形成に努めます。

(重点施策)

○文化施設の利用促進・機能強化

県立美術館、県立博物館、天神山文化プラザ、ルネスホール、県立図書館、県立記録資料館などの文化施設の利用促進に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症対策により培った経験等も踏まえ、安全で安心して過ごせる環境を整えます。

また、すべての人々に利用しやすく多様なサービスを効率的に提供できる地域の文化の拠点となるよう、学芸員や職員の研修の充実、資料のデジタル化、外国語表記の充実など、様々な手法を活用し文化施設の機能強化を図ります。

~~また~~さらに、県民が身近に文化活動を行うことができる場の充実に努めるため、学校の空き教室や廃校施設、歴史的建造物、公共空間、商店街の空き店舗等、地域の文化資源についても、県民や地域の文化関係者の文化活動への幅広い利用を促進します。

○質の高い美術や舞台芸術等の鑑賞機会の提供

広く県民が優れた多様な文化に親しみ新しい価値に出会うことができるよう、県立美術館、県立博物館においては、郷土ゆかりの資料の収集に努め、充実した展示を行うとともに、多くの人が文化に気軽に親しみ鑑賞できる企画展を開催します。

また、国や公益法人等が行う支援制度を活用して、県内の文化施設において国内外の質の高い美術や舞台芸術等を鑑賞できる機会の充実を図ります。

さらに、民間団体、NPO等が行う文化の公演等への支援を通じて鑑賞できる機会の充実に努めます。

○文化に関する情報提供の充実

文化の情報拠点機能を持つ天神山文化プラザ等において、各種文化情報の収集に努めるとともに、その情報をはメディア等を用いて広く県民に対し発信します。

また、インターネットを活用し県民や文化関係者が文化情報の発信や入手を容易にできるようホームページ「岡山文化情報」の内容を充実させるとともに、より使いやすいものになるよう努めます。

○おかやま県民文化祭の充実

県民の文化への関心や、県内各地の文化活動の取組を根付かせ、伝統ある地域文化や新たに創造された特色ある文化を県民が身近に感じられる機会を提供するため、県民との協働によるおかやま県民文化祭の充実に努めます。

(4) 障害のある人の文化芸術活動の推進

障害のある人が文化に親しむことは、交流の拡大・生きがい・生活の充実等につながるものです。障害のある人が、文化芸術活動を行うい、鑑賞することのできる環境づくりに取り組みます。

~~また、今まで文化活動を行うきっかけがなかった障害のある人にも、文化に触れる機会を提供するよう取組を進めます。~~

(重点施策)

○障害のある人の文化芸術活動の推進

障害のある人が、自身の文化芸術活動を発表する場や、~~芸術作品等を鑑賞する~~など文化に親しむ機会の充実に回り、~~障害の有無に関わらず文化に親しめる環境づくり~~の充実に努めるとともに、文化芸術活動を通じて、障害のある人とない人との交流に努めます。

○文化施設での字幕・音声案内サービスの提供等

博物館、美術館等における文化公演や展示等において、字幕や音声案内サービスの提供等、障害のある人のニーズに応じた工夫・配慮が提供されるように努めます。

2 文化が地域の元気を生み出す岡山

(1) 伝統文化の保存・継承・発展

岡山県には、「岡山後樂園」「吉備津神社」「旧閑谷学校」などの文化財や、「備前焼」「備前刀」などの伝統工芸、「備中神楽」「白石踊」「横仙歌舞伎」などの伝統芸能など全国に誇る豊かな伝統文化があります。

このような穏やかで恵み豊かな自然・風土が、古代吉備以来、各時代に多彩な文化を育んできた岡山県の歴史を物語る文化遺産を、県民共有の財産として適切に保存し、その中に含まれる先人の知恵を汲み出し、本質を学び、そして次世代に継承するとともに、今に生きる文化として発展させ、積極的な活用を図ります。

(重点施策)

○民俗芸能・伝統工芸などの保存・継承・活用

地域の祭り、民俗芸能、伝統行事、伝統工芸技術、先人が日常生活の中で伝えてきた知恵などを保存・継承をするための調査や記録保存、発信を推進するとともに、伝統工芸展や民俗芸能の祭典等の発表機会への参加促進や、後継者の育成、保存団体のネットワーク化を推進します。

○古代吉備文化遺産の保存・活用

古代吉備の豊かな文化遺産を体感できるよう、文化遺産の特性や適切な保存に配慮しつつ、積極的な活用を行い、県民が歴史や文化に触れ、親しむ機会を充実します。そのため、県・市町村が連携して、主要な遺跡や建造物等の文化遺産の保存・活用を図ります。

さらに、地域の文化財保護団体との連携によるボランティアの育成・活用など、文化財保護活動の充実を図ります。

○郷土の誇る先人顕彰の推進

様々な分野における郷土の先人の功績をたたえ次世代に伝えていく、学びや新たな創造を促すため、先人の功績の記録・顕彰、遺品・資料・作品の収集及び公開を推進します。

○ユネスコ無形文化遺産登録活動の支援

「日本の書道文化」など、後世に伝えていくべき無形文化を、ユネスコ無形文化遺産に登録する活動の支援に努めます。

(2) 文化の力を活用した地域の活性化

地域の風土に根ざし、先人が守り伝えてきた様々な伝統文化や、地域固有の全国に誇りうる文化資源を改めて認識し、民間団体、NPO、大学等と連携しながら、地域で芽吹く新たな創造活動の活性化に努め、文化の力による地域のにぎわいの創出を促進します。

(重点施策)

○地域固有の文化資源の掘り起こし

伝統文化、優れた景観、地域の歴史を素材とした文化活動などは、再評価や有効活用により、地域を特徴づけるシンボルとなります。

このような県内各地に存在する特色ある文化資源を幅広く掘り起こし、ブランド化を図り、地域づくりに生かすとともに、~~東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムの素材として活用~~していきます。

○文化による地域のイメージアップとにぎわい創出

文化を核とした地域づくりを推進するため、地域の文化素材を生かした取組を行っている団体やNPO等を支援します。また、~~空き店舗や空き家、学校の空き教室や廃校施設等を活用したアーティストや地域の文化関係者などによる文化の拠点づくりの取組を促進するなど~~アートイベントに必要な企画力、コーディネート力等のスキルを備えた人材育成などを通じ、文化による地域のにぎわい創出を図ります。

○国内外のアーティストの地域への受け入れ

地域の作家や住民、NPO、市町村などが主体となり、国内外のアーティストを招へいして、地域資源を活用したアーティスト・イン・レジデンス^{※5}を行い、今まで気づかなかった地域の魅力の再発見に繋げていきます。

○美しく魅力ある景観づくりの推進

地域に残る歴史的な建造物や魅力ある町並み、美しい自然、調和の取れた集落や都市の景観は、人々の情緒・感性を豊かにし、潤いと安らぎを人々に与えます。

このような地域が誇る風景や自然、地域の特色ある生活などの文化資源を活用した美しく魅力ある景観づくりを推進します。

○歴史・自然を生かした豊かな「くらし文化」^{※6}の振興

各地に伝わる祭り、行事、郷土料理など人々の生活により形作られてきた衣食住に関わる「くらし文化」は、本県の自然、歴史、伝統、また農業をはじめとする産業にも根ざした重要な資源であり、未来への継承に努めるとともに、その魅力を国内外へ発信していきます。

※5 アーティスト・イン・レジデンス：アーティストを招聘し、滞在期間中に作品を制作してもらうこと、また、それらの活動を支援することをいいます。

※6 くらし文化：瀬戸内海に面した岡山ならではのぼら寿司や、備中杜氏の技術に支えられた酒などの食文化、各地に伝わる特色ある伝統行事などをいいます。

○国際的なアートイベントとの連携

国際的なアートイベントは、本県の文化シーンに新たな魅力を付け加え、国内外からの観光客の増加をもたらします。このため、アートイベントとの連携を十分に図るとともに、その効果が、県内に広く波及し、相乗効果が上がるよう取り組みます。

(3) 地域資源としての文化の積極的な活用

地域の文化資源に内在する先人の英知や創造性などを活用して、~~観光~~**繊維**産業・~~繊維~~**観光**産業をはじめ、文化財等の情報を効果的に発信し、文化を通じて地域の魅力を高めます。

(重点施策)

○繊維産業の振興

伝統に基づくものづくり技術や豊かな感性を生かし、技術開発や人材育成、産地ブランド化を総合的に推進し、生活文化であるファッションに大きく寄与している繊維産業を伝統分野から高度先端分野まで幅広く対応できる産業へ飛躍させる取組を進めます。

○観光産業の振興

伝統文化や産業文化遺産、建築文化遺産などの地域固有の文化資源を掘り起こし、新たな観光資源として積極的に活用することにより、魅力ある観光地づくりに努めます。

また、文化振興と観光振興部門の連携を図ることにより、地域文化の魅力を伝える観光や、観光PRを活用した地域文化の情報発信を促進します。

○文化財や歴史的建造物の観光振興等への活用

豊かな歴史を象徴する文化財や歴史的建造物などの文化遺産を、その特性や適切な保存に配慮しつつ、広く県民が親しむことができるよう公開・活用します。

また、有形・無形の文化資源を観光・産業振興等に活用するための取組を進めます。

○~~日本遺産認定の推進~~の**魅力発信**

岡山県の歴史的魅力にあふれた文化財や伝統文化をわかりやすくストーリー化した「日本遺産^{※7}」~~に認定する取組を促進します。また、その魅力を県内外に発信していくことにより、地域の活性化を図ります。~~

※7 日本遺産：文化・伝統を語るストーリーを文化庁が「日本遺産」として認定するものです。ストーリーを語る上で欠かせない魅力あふれる有形や無形の様々な文化財群を総合的かつ一体として活用し、地域活性化を図ることを目的としています。

3 文化発信しながら交流を広げる岡山

~~(1) 多様な文化プログラムの展開~~

~~オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典であるとともに文化の祭典でもあります。国内外に岡山の文化の魅力を発信するとともに、その魅力を再認識し、さらに発展させる契機となるよう文化プログラムへの参画を促進します。~~

~~(重点施策)~~

~~○オリンピック・パラリンピックに向けた多様な文化プログラムの展開~~

~~東京オリンピック・パラリンピックに向けて、多様な文化プログラムの展開を促進します。様々な主体が連携・参加・交流し、岡山の魅力を国内外に発信していきます。~~

~~○次世代へ継承されるレガシーの実現~~

~~文化プログラムの実施を通じて、東京オリンピック・パラリンピック後にも継承されるレガシーを以下の4つのコンセプトを基に実現していきます。~~

- ~~・岡山における文化の再認識と継承・発展~~
- ~~・次世代育成と新たな文化の創造~~
- ~~・岡山における文化の世界への発信と国際交流~~
- ~~・あらゆる人の参加・交流と地域の活性化~~

~~(2-1) 文化による連携・交流の促進~~

文化の交流を通じ、地域の文化活動の活発化や人々の相互理解を深めるため、県内各地の特色ある文化、伝統行事など地域の文化資源を活用した地域間交流や、世界の様々な地域の人々との交流を促進します。

(重点施策)

○文化ネットワークの形成

様々な分野の芸術家や、文化団体、NPO、ボランティアなどの文化に関わる人々が活動できる環境をサポートするため、研修機会の充実を図るとともに、情報交換や交流を通じて文化活動の運営や企画を支える人材のネットワークづくりを推進します。

また、創造都市ネットワーク^{※8}など全国的な団体とのつながりを活用し、先進事例の情報収集や、情報共有を行います。

○国内文化交流の促進

※8 創造都市ネットワーク：文化の創造性を生かした発展や再生の取組を目指す自治体や団体のネットワークをいいます。

世代や分野を超えた文化団体や人々の交流の広がりを通じて、県内外の文化交流や全国大会への参加を促進するとともに、文化関係の全国大会や中四国大会などの誘致を推進します。

○国際文化交流の促進

文化施設における外国語表記を充実させ、県内在住の外国人や外国人旅行者が本県の文化に親しみやすい環境づくりを推進します。

また、文化団体、NPO等が行う海外の芸術家によるアーティスト・イン・レジデンスの取組を支援します。

(~~3~~2) 岡山からの文化発信

国内外における岡山の認知度を高めるため、メディア等の効果的な活用や人的交流を通じて、伝統文化から現代文化まで、多様な文化の魅力の国内外へ向けた積極的な発信を推進します。

また、新しい生活様式の実践として、対面によらず活動ができるインターネットを活用したオンライン配信などの取組が急速に拡大していることなどを踏まえ、実際に足を運んで文化芸術に触れることが難しい場合や、普段、文化芸術に触れることが少ない人たちが興味を持つ動機付けとする場合などにICT^{※9}を補完的に活用することで鑑賞機会の充実を図ります。

(重点施策)

○文化情報のデジタル化、データベース化による情報発信

美術品や文化財など様々な文化に関する情報について、デジタル技術を活用したアーカイブ化による記録・保存に取り組むとともに、インターネット等を活用した情報発信を推進します。

○ソーシャルメディア等の活用による魅力発信

文化情報を集約するポータルサイトや、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などを効果的に活用し、本県の文化資源や文化プログラムなどを積極的に国内外に情報発信します。

○おかやま独自の文化発信

本県の文化を積極的に発信する取組を通じ、県民に本県の魅力を再認識してもらうとともに、他県に在住している本県出身者の郷土愛を高め、岡山の文化の素晴らしさを共有できるよう努めます。

また、国内外における岡山の認知度を高め、県民が岡山の文化に愛着心と誇りが持てるような岡山ならではの文化発信に努めます。

※9 ICT：Information and Communication Technology（情報通信技術）の略称で、情報処理や通信に関連する技術・産業・設備・サービスなどの総称をいいます。

Ⅵ 文化振興のための体制づくり

1 文化行政推進体制の充実

文化の分野の広がりや文化振興の多様化を踏まえ、県の各部局の緊密な連携・協力により、文化の総合的なコーディネーターとしての役割を担えるよう、総合的な文化振興を推進するとともに、文化活動の調査・分析などの支援に努めます。

また、岡山県郷土文化財団や岡山県文化連盟をはじめ、芸術家・文化団体・NPO・企業・大学・市町村など本県の文化を担う多様な主体との連携を一層強化していきます。

さらに、~~東京オリンピック・パラリンピックに向け文化プログラムを展開し、そのレガシーを創出していくため、~~岡山県文化連盟内に設置している中間支援組織「おかやま文化芸術アソシエイツ」の充実、強化に取り組みます。

2 政策形成への民意の反映等

文化行政を推進する上で、県民の多様なニーズを把握することが重要であることから、文化の振興に関する施策形成や事業実施に際して、文化振興審議会の意見聴取、有識者等の積極的活用による県民の多様な意見の反映に努めます。

また、県全体の事業について選択と集中を図る中、文化振興の施策についても適切な評価を行い、支援の重点化と効率化を図る必要があることから、文化振興審議会の意見も聴きながら事業効果の把握に努め、各施策を評価し、事業実施に反映します。

おokayama文化振興ビジョン(2018-2027)に係る成果指標の見直し(素案)

【基本方針】

1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

指 標 名	目標値 R9年度 (2027)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	直近の実績値 R3年度 (2021)	新目標値 R9年度 (2027)	担当課等
文化施設利用者数	530,000人	468,770人	220,477人	267,800人	目標値検討中	文化振興課 県立美術館 文化財課
<small>(説明) 県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館の利用者数</small>						

【重点施策】

(1) 将来の地域文化の担い手育成

指 標 名	目標値 R4年度 (2022)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	直近の実績値 R3年度 (2021)	新目標値 R9年度 (2027)	担当課等
おokayamaの文化財キッズページ年間アクセス数	1,800件 (2020年度)	3,380件	6,201件	6,515件	指標廃止	文化財課
<small>(説明) おokayamaの文化財キッズページ年間アクセス数</small>						
学校行事で県立美術館を訪れた人数	4,800人	1,910人	2,033人	1,661人	目標値検討中	県立美術館
<small>(説明) 授業や部活動などの学校行事で県立美術館を訪れた人数</small>						
子どもみらい塾講師派遣回数	530回	333回	209回	196回	目標値検討中	文化振興課
<small>(説明) 岡山県文化連盟が芸術・文化の指導者を講師として学校等に派遣した回数</small>						
優れた芸術を鑑賞した学校数	1,300校	1,085校	1,178校	1,294校	目標値検討中	生涯学習課
<small>(説明) 県や国が実施するスクールコンサートや、青少年劇場、巡回公演事業等を開催した学校の累積数</small>						
アウトリーチ活動実施回数	43回	17回	11回	17回	目標値検討中	文化振興課 県立美術館 文化財課
<small>(説明) 県立美術館、県立博物館、ルネスホールが実施したアウトリーチ活動の回数</small>						

(2) 県民参加による新たな文化の創造

指 標 名	目標値 R4年度 (2022)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	直近の実績値 R3年度 (2021)	新目標値 R9年度 (2027)	担当課等
おokayama文化芸術アソシエイツへの相談件数	400件	273件	435件	537件	目標値検討中	文化振興課
<small>(説明) おokayama文化芸術アソシエイツへの相談件数の累積数</small>						
文化関係各種助成金の採択件数	40件	26件	21件	25件	指標廃止	文化振興課
<small>(説明) 日本芸術文化振興会、地域創造、エネルギー文化・スポーツ財団等の団体が募集した助成金事業に採択された件数</small>						
県が実施するアートマネジメント講座修了者数	200人	115人	115人	127人	目標値検討中	文化振興課
<small>(説明) 県が実施するアートマネジメント人材を育成するための講座を修了した受講生の累積数</small>						
県立美術館ボランティア数	100人	98人	95人	93人	目標値検討中	県立美術館
<small>(説明) 県立美術館に登録しているボランティア数</small>						
岡山県美術展覧会への応募点数	3,300点	2,600点	0点	2,282点	目標値検討中	文化振興課
<small>(説明) 岡山県美術展覧会へ一般応募された作品(日本画、洋画、工芸、書道、写真、彫刻)の点数</small>						

(3) 県民の文化創造活動の振興

指 標 名	目標値 R4年度 (2022)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	直近の実績値 R3年度 (2021)	新目標値 R9年度 (2027)	担当課等
文化施設利用者数	506,000人	468,770人	220,477人	267,800人	目標値検討中	文化振興課 県立美術館 文化財課
(説明) 県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館の利用者数						
「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じている人の割合	38.0% (2020年度)	40.4%	28.0%	26.2%	目標値検討中	文化振興課
(説明) 県民満足度調査「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じている人の割合 (※新晴れの国おかやま生き生きプランにおける生き生き指標)						
「岡山文化情報」ホームページアクセス数	34,000件	39,632件	38,444件	7,409件	後継指標検討中	文化振興課
(説明) 県内の文化施設や文化イベント等を紹介するホームページ「岡山文化情報」へのアクセス数						
県民文化祭参加者数	408,000人	205,182人	110,916人	141,246人	目標値検討中	文化振興課
(説明) おかやま県民文化祭への総参加者数 ※R2年度はZOOMによる参加者69人、R3年度はYouTubeによる参加者2,660人を含む						
おかやま県民文化祭の主催・参加プログラム件数	—	176件	136件	173件	指標追加	文化振興課
(説明) おかやま県民文化祭の主催・参加プログラム件数(※第3次晴れの国おかやま生き生きプランにおける生き生き指標)						

(4) 障害のある人の文化活動の推進

指 標 名	目標値 R4年度 (2022)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	直近の実績値 R3年度 (2021)	新目標値 R9年度 (2027)	担当課等
障害のある人のアート展への応募点数	250点	205点	298点	302点	指標廃止	障害福祉課
(説明) 岡山県主催の障害者アート展への応募点数						
beyond2020プログラムのうち障害のある人にとってのバリアを取り除く取組を含むプログラムの認定件数	1,100件 (2020年度)	620件	767件	837件	指標廃止	文化振興課
(説明) 岡山県が認定するbeyond2020プログラムのうち障害のある人にとってのバリアを取り除く取組を含むプログラムの認定件数の累積数						

【基本方針】

2 文化が地域の元気を生み出す岡山

指 標 名	目標値 R9年度 (2027)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	直近の実績値 R3年度 (2021)	目標値 R9年度 (2027)	担当課等
地域の特色や魅力を生かす取組を展開できるアートマネジメント人材の育成数	500人	301人	388人	519人	目標値検討中	文化振興課
(説明) おかやま文化芸術アソシエイツが実施するアートマネジメント研修受講者数と県が実施するアートマネジメント人材を育成するための講座を修了した受講生の累積数						

【重点施策】

(1) 伝統文化の保存・継承・発展

指 標 名	目標値 R4年度 (2022)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	直近の実績値 R3年度 (2021)	新目標値 R9年度 (2027)	担当課等
日本伝統工芸展への応募点数	120点	64点	51点	56点	目標値検討中	県立美術館
(説明) 日本伝統工芸展に県内在住者が応募した点数						
登録文化財の登録件数	310件	334件	342件	343件	目標値検討中	文化財課
(説明) 登録文化財の登録件数						
犬養木堂記念館及び岡崎嘉平太記念館利用者数	29,000人	25,878人	21,102人	19,056人	指標廃止	文化振興課
(説明) 犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館の利用者数						

(2)文化の力を活用した地域の活性化

指 標 名	目標値 R4年度 (2022)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	直近の実績値 R3年度 (2021)	新目標値 R9年度 (2027)	担当課等
東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの件数	2,000件 (2020年度)	981件	1,173件	1,246件	指標廃止	文化振興課
(説明)東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムとして、国、県等が認定する文化イベント件数の累積数						
県民文化祭地域フェスティバル実行委員会への参加団体数	130団体	211団体	366団体	242団体	目標値検討中	文化振興課
(説明)おかやま県民文化祭地域フェスティバル(備前・備中・美作)の実行委員会に参加した団体数						
県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業参加アーティスト数	25人	19件	8人	11人	指標変更 目標値検討中	文化振興課
(説明)県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業への参加アーティスト数						
地域の景観づくりに主体的に取り組む景観行政団体(市町村)数	10団体	9団体	9団体	9団体	指標廃止	環境企画課
(説明)景観計画の策定等、地域独自の景観形成施策を実施する景観行政団体(市町村)数						

(3)地域資源としての文化の積極的な活用 《成果指標なし》

【基本方針】

3 文化発信しながら交流を広げる岡山

指 標 名	目標値 R9年度 (2027)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	直近の実績値 R3年度 (2021)	目標値 R9年度 (2027)	担当課等
文化施設ホームページアクセス件数	432,000件	1,006,937件	736,369件	816,717件	目標値検討中	文化振興課 県立美術館 文化財課
(説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館のホームページアクセス件数						

【重点施策】

(1)多様な文化プログラムの展開

指 標 名	目標値 R4年度 (2022)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	直近の実績値 R3年度 (2021)	新目標値 R9年度 (2027)	担当課等
東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの件数【再掲】	2,000件 (2020年度)	981件	1,173件	1,246件	指標廃止	文化振興課
(説明)東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムとして、国、県等が認定する文化イベント件数の累積数						

(2)文化による連携・交流の促進

指 標 名	目標値 R4年度 (2022)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	直近の実績値 R3年度 (2021)	新目標値 R9年度 (2027)	担当課等
文化に関わる人々のネットワークづくりのためのワークショップ等受講者数	1,500人	818人	912人	959人	目標値検討中	文化振興課
(説明)おかやま文化芸術アソシエイツが実施する文化に関わる人々のネットワークづくりのためのレクチャー・ワークショップ受講者数の累積数						
国民文化祭への派遣団体数	10団体	4団体	0団体	6団体	目標値検討中	文化振興課
(説明)国民文化祭への派遣団体数						
県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業参加外国人アーティスト数	7人	3人	0人	5人	目標値検討中	文化振興課
(説明)県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業への参加外国人アーティスト数						

(3)岡山からの文化発信

指 標 名	目標値 R4年度 (2022)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	直近の実績値 R3年度 (2021)	新目標値 R9年度 (2027)	担当課等
「岡山文化情報」ホームページ アクセス数	34,000件	39,632件	38,444件	7,409件	後継指標検討中	文化振興課
(説明)県内の文化施設や文化イベント等を紹介するホームページ「岡山文化情報」へのアクセス数						
県立美術館フェイスブック「いいね」の <u>Instagramのフォロー</u> 数	1,900件	1,809件	1,885件	1,986件	指標変更 目標値検討中	県立美術館
(説明)県立美術館フェイスブック「いいね」のInstagramのフォロー数の累積数						

【参考指標】

指 標 名	目標値 R4年度 (2022)	R元年度 (2019)	R2年度 (2020)	直近の実績値 R3年度 (2021)	新目標値 R9年度 (2027)	担当課等
外国人旅行者宿泊者数	300,000人 (2020年度)	313,673人	15,240人	9,753人	目標値検討中	観光課
(説明)県が調査している外国人旅行者宿泊者数 (※新晴れの国おかやま生き生きプランにおける生き生き指標) 現行ビジョン【基本方針】2【重点施策】(2)「文化の力を活用した地域の活性化」に関連する参考指標						
観光入込客数	1,500万人 (2020年)	1,692万人	1,332万人	7月公表予定	目標値検討中	観光課
(説明)観光庁「観光入込客統計」(暦年調査)による観光入込客数 (※新晴れの国おかやま生き生きプランにおける生き生き指標) 現行ビジョン【基本方針】2【重点施策】(3)「地域資源としての文化の積極的な活用」に関連する参考指標						
後楽園の入園者数	900,000人 (2020年度)	832,677人	360,304人	267,801人	目標値検討中	都市計画課
(説明)後楽園の入園者数 (※新晴れの国おかやま生き生きプランにおける生き生き指標) 現行ビジョン【基本方針】2【重点施策】(3)「地域資源としての文化の積極的な活用」に関連する参考指標						

ビジョン中間見直しのスケジュール(案)

R4

2月

文化振興審議会
新たな委員の選任、意見交換

6月

文化振興審議会
ビジョン見直しの「方向性」について協議

8月

文化振興審議会
ビジョン見直しの「素案」について協議

10月

※概ね1カ月

パブリックコメントの実施
ビジョン見直しの「素案」について意見を公募

12月

パブリックコメントの結果公表
寄せられた意見と県の考え方を公表

R5

2月

文化振興審議会
ビジョン見直しの「最終案」について協議

3月

文化振興ビジョンの見直しを決定